

---

# 遊戯王GXの世界に転生した物語（意外とそのまんまな題名）

四季

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

遊戯王GXの世界に転生した物語（意外とそのまんまな題名）  
(論)

### 【著者名】

ZZード

### 【四季】

### 【あらすじ】

「今日、俺は遊戯王の世界に転生した」

何が言いたいのかわからないとは思うが気にするな、俺も思考が追いついていない。

とりあえずわかるのは、「これからが楽しみだつてことだ・・・・・。

## プロローグ

「知らない場所だ……」「

気が付いたら俺は、真っ白い空間にいた。

……おかしい、俺は確かに家で遊戯王の『テッキを作っていたはずだ。

ちなみに俺の名前は不知火遊夜。高校2年だ。

少し戸惑いながら周りを見渡していると、なんかものすごいイケメンが突っ込んでて恐ろしい速さ（普通に見えなかつた）で土下座した。

「どうも、すいませんでした！…………！」

「…………は？」

いきなりの展開過ぎてまったくわからない。  
とりあえずどうしたことなのかを青年に尋ねてみた。

「なあ……どうことだ？」

「じ、実はな……俺は神様なんだ！」

まずはそこからブツ飛んでもますね。

「実は書類整理をしてたんだが暇でね、寝ていたら…………」「ね、寝ていたら…………？」

「君の書類に涎が付いて汚いと思って捨てたら、君が死んじゃった

・・・・・へ？

「いやだから書類を捨てたら偶々君ので、その紙は君の人生が書いてあって、捨てたら死んだってこと」

「つそだろお！？」

「いえ、本当です（キリッ）」

ええ・・・・これからどうしようと・・・・・。

「特に驚いたり怒ったりしないことに俺は驚いた。君には特例として一度目の人生を歩んでもらうことになったよ」

「やうなんですか？」

「うん。世界は・・・・・・

どこになるんだろうか？

「二次創作ではアニメの世界が普通だが出来れば元の世界が嬉しい・・・・・つて無理か。

「空にしてるのは遊戯王の世界だけだね。どの時代に行きたい？ 力シトビング？ シンクロ？ それともガツチャ？」

「できればガツチャで！」

即答してしまつたが悪くはないと思つ。  
だって、面白やうじやないか！－

「うそ、じゃあ、チートは使えるあるべ？」

うーん・・・そんなのは特にならないし・・・・・。

「それじゃあ、生前に持っていたカードを持って行きたいな  
持つていけるのは10000枚が限界だけど？」

「じゃあ、必要なのを教えるから持ってきてもらえたと嬉しいです

「じゃあ、この紙に必要なもの書いて  
「了解」

うーん……俺が使つてたのはこれとこれと……あと  
れもだな。  
あまりは……。

（～5時間後～）

「決めました」  
「大分かかったね」  
「ええ、枚数が枚数ですから」  
「じゃあ、準備はいいかい？」  
「はい」

これで文句はないはずだ……たぶん。

「君の性別は男、年齢は零から……まずはじゅうじゅうOK?」

「はい」

「名前は今と同じ、両親は……まあ、どうなるかは不明

「はい」

「あとは……まあ、こんなものかな?じゃあ、行くよ

「これから行くのか……少しどきどきするな……。

・・・と思つていたら地面にだんだん体が沈んでいました。

「うえー！？」

「じゃ、がんばってね～」

こんな始まりだが、ここから俺の新しい人生がスタートしたのである。

第一話／もう転生から10年が経ちました・・・え？早い？（前書き）

え？早い？

気にしたら負けですよ。

本編に入るため、この話が終わつた後、また時間が飛びます。  
ご了承ください。

では、一話目、どうぞ！

# 第一話～もづ転生から～0年が経りました・・・え?早い?

生まれてからもう一〇年が過りました。

え?早い?

・・・お前は、赤ちゃんの生活とか見て面白こと思つか?思わないだろ?

・・・と訳である。

お父さんとお母さんは・・・・・・事故で去年亡くなつた。

あの時は年甲斐もなく思い切り泣いたな・・・・・。

今は早乙女さん家にお世話をなつてます。

家?それは俺の家に住んでるやつ。

5歳くらいコレコレを見て、KJが写つてたときはかなり興奮しました。

だって、KJだよ?遊戯王の世界に来たって言つ実感がもてるじゃないか。

「・・・ちなみに今は、お世話になつてゐる早乙女さんの家のレイチャンの相手をしてこませ」

「・・・遊夜兄、誰で言つてゐるの?」

「氣にしたら負けだよ」

そんな会話をしながら話していたり、郵便が届いた。

ピンポンー

「はーい」

「この荷物に判子をお願いします」

「はー」

判子を押して受け取ると、神進と書いていた。

・・・カードか。やつときたな。

中身を見ると、確かに俺が頼んだカード達だった。

・・・やつとデュエルができるな・・・・・。

そう思い、嬉しくなった。

いや、カード持つてないわけじゃないんだよ? ただ、親からも「うつたカードなんだけど、なんか危険なんだ。わからないけど。

「よし、レイ、デュエルしようか!」

「でも遊夜兄強いもん・・・・」

「だ・か・ら、レイも強くするんだよ、今から」

「本當!」

メチャクチャ皿をキラキラせいでいる三ツ子従兄妹。

正直言つて・・・・可憐です。

「じゃあ、やつと組み上げて戦つかー!」

「うん!」

（組み上げ始めて3時間後）

「やつとできた・・・・な」

「うん・・・・長かつたね・・・・・・」

そりやあ、俺たちの時間で言えばこれは長いだろ？・・・・。

「時間もないから、明日またやるつ？」

「うん・・・仕方ないね・・・・・」

卷之三

そんなレイはいやだな・・・・。

俺ナレーターの頭をへっしゃへっしゃと漸くした。

「うーー河野の遊女」

「これからは何時でも相手してやるからそんな顔するなよ・・・な

〔二〕

じりして、一日は終わった。

次の日

「遊夜兄、きたよー！」

早朝8時、宣言どおりにヨリノ従兄妹はやつてきた。

る。

昨日は田曜日、このあと3日ほど「ホールデンウィーク」が残っている。そして、ホールデンウィーク明けは・・・なんと俺の通う学校の創

立論の題材となるべきは、木暮の「政治小説」である。

ふはははは！ 休みとは「これほどよいものだつたのか！！

「遊夜兄？はやくテコヘルしようよ～」

「あ、うん。わかった。わかったから話せないでくれー…？」

もつと直言つて酔いそうです・・・・・。

「え、ごめんなさい」

「ここ・・・それよりもテコヘルだよね？」「いや、やひいか

こつして俺とレイはテコヘルしたわけだが、

俺が勝ち、レイがもう一回もつ一回ーと言つたので、結局一回中やつ

ていた。

・・・正直言つて疲れた・・・・・。

## 第一話／試験当日・・・やつぱり飛びかわへ（前書き）

連続投稿の2日目。

今回まではコヒルあります（当然か）。

では、本編じゅうせー！

## 第一話／試験当日・・・やつぱり飛びゅわ〜。

またあれから5年が経つた。

早い？そんなのじ都合主義だ。なんとかなる。

ちなみに今日は受験日なんだが・・・。

「簡単すぎる・・・・・」

テストを開始20分ほどで終わらせてしまった。  
二次創作でブルーアイズ関連が多いのはテンプレだったが、まじで  
あるとは思わなかつた。

一問目、通常モンスターで一番攻撃力の高いモンスターは？

二問目、青眼の白龍の攻撃力・守備力を答えよ。

三問目、青眼の白龍の・・・・・etc・etc・・・・・。

正直言つて脱帽しました。

でも30問中の後半十問は普通でしたよ？

二十一問目、融合カードの特徴を答えよ。

二十二問目、巻き戻しについて答えよ・・・なんかがいい例だ。

暇すぎてたまらん。

正直言つてやることがないんだが・・・・・。  
寝るか・・・。

1 時間後

「うん、よく寝た？」

気が付いたら皆帰つてしまつていた。

こんなとこで一人でいるの、て悲しいんだぞチケシ――！

「帰るか・・・・・」

とりあえず、今日は帰つて英気を養うとしよう。・・・・。

1週間後

ふ・・・フハハハハハハハハハハ！やつとこの日が来たか！！

「お前が『トヨハル』が樂しみなんだよ。」

「さてと、着替えて時間……は……？」

8 · 30 · · · · · · · · ·

俺の行動は早かつた。

すぐさまトッキを持つて家を出て、海馬ドームへと向かつた。

「もつとくに俺の番終わってない!?」

ちなみに俺は一番である。

（10分後）

「や、やつとついたぜ……。受験番号2番、結城遊夜、ただいま到着しました」

「うん？ 確認した。中に入れ」

中に入ると、丁度十代のデュエルが終わったところだった。

「ガツチャツ！ 楽しいデュエルだつたぜ、先生！！」

「そんな、ワタ シがこんなドロップアウトボーイに負けるナシテ」

クロノスが、すく落ち込んでいる。まあ、バカにしていた奴に負けるのはくやしいけどあんなにかと、考えていると。

「そこ」のドロップアウトボーイも受験生ナーネ？

「はい。受験番号2番、結城遊夜です」

「なら、君の相手も私がするナーネ（受験番号2番なら倒せば汚名返上ナーネ）」

クロノスはたぶんこれで汚名返上ナーネとか思つてるだろ？ まじ、まいい。

デッキは……あつた……ってこれかよ…？

下手なのだとしたら危ないけど……まあ、なんとかなるだろ。

「準備はいいナーネ？」

「はい」

デッキをディスクに入れて構える。

「「**決闘**（ナノーネ）！！」

クロノス：4000

遊夜：4000

「先行はワタシがもううノーネー！ワタシのターん、ドローー！」

クロノスがデッキからカードを引く・・・思つんだけどあのディスクって使いずらそうじゃない？

「ワタシはカードを一枚伏せて、大嵐を発動するノーネ！」

このパターンってことはおそらくあの伏せカードは・・・・・。

「伏せカードは黄金の邪神像ナノーネ。よつて効果により、邪神トークンを一体召喚ナノーネ」

やつぱりか。

たぶんあれを生贊にしてアニメと同じように古代の機械巨兵（攻300  
アントゥイークギガゴーレム  
アントゥイークギガゴーレム）を召喚するノーネ

「邪神トークン一体を生贊に、ワタシは古代の機械巨兵（攻300  
アントゥイークギガゴーレム  
アントゥイークギガゴーレム）を召喚するノーネ」

像のようなトークンが地面の中に引きずり込まれるように消えていくと、地面から古く鏽びた部品で出来た巨大な機械の人形が現れた。

やはりでてきたか・・・・・ 古代の機械巨兵・・・・・ ! !  
周りは「終わった・・・・・」とか「勝てるわけない」とか言つてゐる  
がまだまだだぜ?

「ワタシはカードを伏せてターンエンドナーネ(伏せカードは聖  
なるバリアミラーフォースナーネ。攻撃してたら返り討ちナノ  
一ネ)」

クロノス(ターンエンド時)

L P : 4 0 0 0

手札: 1 枚

場: モンスター: 古代の機械巨兵 × 1  
伏せカード: 1 枚

「俺のターンードロー! ! !

たぶん、いや絶対あの伏せカードは攻撃反応型だろう。  
・・・ならば、

「俺は手札から、速攻魔法サイクロンを発動、その伏せカードを破  
壊する!」

「ノー! ? ワタシのミラー フォースが! ?」

やはりミラーフォースだったか・・・危ない危ない。

「俺は手札からフィールド魔法Sin Worldを発動する」

おそらくこのカードでわかつただろうが、今回の「ギック」は「シニード」とキだ。

そして、今手札にあるのは・・・・・！

「つは！このターンで決めるぜー！」

「ワタシの場には古代の機械巨兵がいるノーネー。そう簡単には行かないノーネー！」

「ところがギックチヨン！俺はエクストラデッキにいるサイバー・エンド・ドラゴンを除外してシニードライバー・エンド・ドラゴン（攻4000／守2800）を特殊召喚する！」

俺の場には奇妙な仮面をつけたサイバー・エンド・ドラゴンが現れる。

「で、ででで『テーモ？攻撃力は高くてもライフは残るノーネー』

「残念だが残させないぜ？速攻魔法リミッター解除、発動！」

Sin サイバー・エンド・ドラゴン 攻4000 8000

念のために入れといて正解だったな。  
これで削りきれる。

「な、ななななな・・・・・！」

「これで終わりだ！Sin サイバー・エンド・ドラゴンでダイレクトアタック！エターナル・エヴォリューション・バーストー！」

クロノス LP4000 - 1000

「ペペロンチイイイイノオオオオオオオオオオオオオオオオ～～～！」

「俺の・・・勝ちだ！」

ワンターンキルなんて久しぶりにやつたぞ？結構きつかつたが。

「すげえ」「あの状況で勝つた!?」などいろいろな声が聞こえる。

結果はどうなるんだろうか・・・・?少し楽しみである。  
俺はこれまでにないほど軽い足取りでそこを後にした。

直後、歓声が起つた。

## 第一話／試験当日・・・やつぱり飛びゅあ？（後書き）

今回の最強カードは『S·i·n サイバー・ハンド・ドラゴン』。

効果モンスター

星10／闇属性／機械族／攻4000／守2800  
このカードは通常召喚できない。

自分のエクストラデッキから「サイバー・ハンド・ドラゴン」1体を  
ゲームから除外した場合のみ特殊召喚できる。

「S·i·n」と名のついたモンスターはフィールド上に1体しか表側  
表示で存在できない。

このカードが表側表示で存在する限り、自分の他のモンスターは攻  
撃宣言できない。

フィールド魔法カードが表側表示で存在しない場合このカードを破  
壊する。

遊「攻撃力が4000と高く、出しやすいモンスターだ

それによつて高確率でS·i·n スターダストと共に入れられて  
ることが多いな」

ただし、フィールド魔法がないと破壊される点に注意だな。

遊「攻撃名は『エターナル・エヴォリューション・バースト』だぜ

！」

まさかの主人公のゲッキは【S·i·n】という・・・。

遊「意外と少なかつたからな、使う奴」  
実は最初は別なデッキを使う予定だったのですが、使う人が多すぎたのでこっちにしてみました。

遊「最初は何の予定だつたんだ？」

最初はBFの予定だつた（笑）

遊「鬼畜だなオイ！」

-----

見てくださつてありがとうございました。

誤字・脱字、プレイングミスなどありましたら、教えてくださると助かります。

遊「感想もいつだつて待つてるぜ」

これからもこの作品をよろしくお願いします！

## キャラクター設定／結城遊夜（前書き）

キャラ設定第一回目は主人公です。

遊「ふーん・・・・・」

では、どうぞ！

## キャラクター設定／結城遊夜

### キャラクター

・主人公

### 名前

(転生前) 不知火 遊夜  
(転生後) 結城 遊夜

### 性別

男

### 身長

168cm

### 体重

52kg

### 年齢

17歳（転生前） 0歳（転生後） 16歳（本編開始時）

### 外見

茶髪に茶色の目。

イメージはハルヒの少し背の縮んだ古泉一樹。

### 性格

面倒なこと・理不尽なことが大嫌い。

また、弱いものいじめも嫌いで、アニメでカイザーを見てからはり

スペクトデュエルをするようになつた。  
その所為で全力で戦つたことが殆どない。

### 使用デッキ

【S.i.n】・・・S.i.nパラドクスドラゴンなどを中心としたデッキ。

序盤は主にこれを使う。

【B.F】・・・BFで構成された言わざと知れた鬼畜デッキ。

本氣で戦つたときに使用される予定だった。

前世でのフェイバリットデッキ。

【?/??】・・・登場後に更新予定。

【?/??】・・・上と同じく登場後に更新。

### 所属

ライエロー

## 第三話／到着ー「テュエルアカニアーー」（前書き）

今回からあとがきにて、「テュエルがあつた場合は今回の最強カード、なかつた場合『セマリードスマイル』（.^。）をやってみるとこじました！」

遊「ほんとに出来るのか？」

う・・・・・。  
や、やつてみせるやー。

と、言つわけで本編の後の『セマリードスマイル』も見て貰えるといふことです。  
では、本編じつだ。

## 第二話／到着！デュエルアカデミア！！

今、俺はアカデミアへ向かう船に乗っている。着ている制服が黄色いことからわかるように、俺はラーアイエローだ。まあ・・・オシリスレッドよりは巻き込まれないし普通だからいいかな・・・・・?

ちなみに2番だった理由は三沢と違い公式大会に出でていなからだとか・・・・・。

そこらへんはアニメ基準じゃないんだな。意外だった。

「お～い！～」

「ん？」

「お前、俺の後にあの先生倒した奴だろ？俺とデュエルしようぜ！」

まさかの遊城十代とのエンカウント。

俺、そんなに目立つてたかな・・・・・・?

「その前に、名乗れ。俺はお前の名前を知らん」

「え？ああ・・・俺は遊城十代、デュエルしようぜ！～」

「名乗られたからには名乗り返さないとな・・・俺は結城遊夜だ。デュエルはアカデミアについてからでいいか？今はデッキの調整

中でな」

「うーん・・・それなら仕方ないか・・・・・。じゃあ、あっち着いたらデュエルしようぜ！～」

「ああ」

そういうつて俺らは別れた。正直言つて何もしていのに疲れた。

やつと行つたか・・・・・。

そつ思つていた俺のところにまたしても原作キャラがやつてきた。

「やあ、2番君」

「君は・・・・・？」

「おつと、俺の名前は三沢大地だ。君のデュエルは実に興味深かつたよ」

「それはどうも・・・・俺は結城遊夜だ。君の事は耳に入れているよ」

「君ほどの人に覚えてもらつていいなんてね・・・。同じ寮としてこれからもよろしく頼むよ」

「俺はそれほど凄くないんだが・・・・これからよろしくな三沢」

「ああ。そろそろ着くからな・・・・じやあ、また寮で会おう」

「ああ」

こうしてまた俺は別れた。

てか、原作キャラと会うのが嫌じゃないか？あつても一人だらう？まあ、別にいいが。

それにも、三沢はアニメを見てたときの印象と違うな。  
なんというかまあ・・・・・・氣さくな奴だった。少なくとも悪い奴じゃがない。

簡単に言つとだな・・・・・・なんで空氣化したのかがわからぬ  
い。いい奴じゃないか。

（数時間後）

今今まで入学式を行つていた。

・・・・・ビニの世界でも、校長の話つて長いんだな・・・・・。

そつしみじみと思った。

ちなみに十代は立つたまま寝ていた。

・・・器用だな。

ともかく、今俺はイエロー寮の前にいた。

お洒落なペントハウス調のそれは、ブルーに比べれば質素だが、暮らしにしては十分すぎると思つ。

割り当てられた部屋に行くと荷物は既に届いていた。

中は意外に広く、快適に過ごせそうだった。

ちなみに、色分けとしては、オベリスク・ブルー > ラー・イエロー > オシリス・レッドの順で成績がいい。

さらに格差もあり、富殿のような寮にフルコースの寮食が出るオベリスクと3人相部屋で木造モルタル2階建ての古アパートであり、食事も序盤はご飯・みそ汁にメザシという粗食では、天と地ほどの差もある。

正直言つてひどい。

つていうか、二次創作でいきなりブルーからつておかしくないか？設定では高校からだと必ずイエローかレッドのはずなんだけど・・・

・・?

まあ、関係ないな。

「時間になるまで寝るか・・・・?」

といつあると、俺は時間まで寝る」といった。

## 第三話／到着・デュエルアカデミア（後書き）

「アリシア、あの後……。

「遊夜が寝始めてから3時間くらい後

「お、起きるよ。歓迎会始まるべ」

「ん、あと1~2時間」

「つまり明日の朝まで起きない奴か!？」

「むしゃむしゃ……」

「頼むから起きてくれ~~~~~」

・・・続く・・・・?

遊「今回なんぞ」などとはじめようと思つたんだ?」

・・・いやあ、面白そうだし、あとがき何も書かないと寂しいから、他の作品で見たとき書いてみよつかなかつて思つたからかな?

遊「つまつは他の作者さんのアイデアをいただいたと?」

YES。

遊「シートウルース・ドラゴン・・・・」

遊夜くん？そんなモンスター召喚してどうする気かな・・・・？

遊「あいつを消し飛ばせ！」

なあにこれえ・・・・・・・・ギヤ-----  
！――

作者は天に召されました。

遊「ふう・・・・今回も見ててくれてありがとうございます。

それからsiriasu様、感想ありがとうございます。

また次回会おつぜーー！」

感想・・・・待つてま・・・す・・・・（バタツ）

## 第四話／対決！－VS二沢（前書き）

今回の相手は二沢です。

いつたい、どんなテッキを使うのでしょうか？

本編へGO！

## 第四話／対決！－VS－三沢

昨日……結局あのあと三沢に起こしてもらい、なんとか歓迎会に間に合つた。

・・・後で三沢になんかお礼とかなきやな・・・・・。

「あ……三沢！」

「ん……？ああ、遊夜か。何のようだ？」

「いや、昨日の礼をしたくてね。探してたんだ」

「礼？」

「そう、だからデッキ見せてくれないか？」

ビのデッキを使うかによって渡すカードを変えることになるからな。

・・・いつたい三沢はどんなデッキを使うのだろうか？

「え？うーん・・・・・。

なら、デュエルしないか？デュエルで見極めればいいさ」

「その方法があつたか・・・・・。

いいだろ、デュエルだ」

「今から10分後、寮近くの庭だ」

「わかつた」

これから十分後、三沢とデュエルすることになった。

・・・勝てるかな？

「まあいい。ただ、戦い抜くだけだ」

ただ、それだけだ・・・・・。

（10分後）

「準備は言いか遊夜！」

「問題ない、いくぞ！」

「『<sup>デュエル</sup>決闘！』」

三沢：4000

遊夜：4000

「今日は先行は俺がもうつ！俺のターン、ドロー！！」

引いたのは・・・S i n ツウルース・ドラゴン。

正直言つて今の状況じゃ特に何も出来ないようなモンスターだ。

「カードを2枚伏せて、魔法カード、テラ・フォーミングを発動する！」

手札に加えるのはS i n W o r l d !

これで手札は4枚。

「カードを裏守備表示で召喚してターンエンド！」

遊夜

LP：4000

手札：3枚

場：モンスター：裏守備表示 ×1

伏せカード：2枚

「俺のターン…ドロー」

三沢のターンか…。

ちなみに俺の伏せカードは激流葬とサイクロンである。

たぶん、ほとんどの」とに対応は出来る…はずだ。

「俺は、E・HEROヒーロー（攻1800／守300）を攻撃表示で召喚！」

ヒーローには、サーチ効果がある。俺は、E・HEROフォレストマン（攻1000／守2000）を手札に加える！」

「この瞬間！リバースカード激流葬を発動！場のモンスターをすべて破壊する…！」

大きな波により、場のカードが破壊されていく。

「そして、俺のモンスターはクリッター（攻1000／守600）！よつて効果によりD・S・パラレルギアを手札に加える…！」

準備は出来た。

ここからは俺のターンだ。

「つぐ、俺はカードを伏せてターンエンダ」

「その瞬間に、俺は伏せカードサイクロンでその伏せカードを破壊する」

「なに…？」

「そして、俺のターンドロー」

手札：5枚

L P : 4 0 0 0

場  
：  
なし

引いたカードは・・・Sinnスター・ダスト・ドラゴン。

「俺は、フィールド魔法SinnWorldを発動。・・・三沢、新しいSinnを見せてやるよ。

俺は、Sinhパラレルギア（攻0／守0）を通常召喚！

これがこのデッキのエースだ！手札のレベル8シンスター・ダスト・ドラゴンが、レベル2のアバペラノルギアをクロールング！！

「チューーーング？なんだそれは？」

場に出てきたギアのようなものか、一つの輪になり白い龍を囲んだ。

「次元の裂け目から生まれし闇、時を越えた舞台に破滅の幕を引け！シンクロ召喚！シンバラドクス・ドラゴン（攻4000／守4000）！」

ああ、ひつたりだろ？・・・・・バトル！！！」

一撃で終わる。」

「ジニアードクス・ドラゴンの攻撃、ダイレクトアタック！！」

三沢：40000

「俺の、勝ちだぜ」

## 第四話／対決！－SIN澤（後書き）

今回の最強力カードは『SIN パラドクス・ドラゴン』。

『SIN パラドクス・ドラゴン』

シンクロ・効果モンスター

星10／闇属性／ドラゴン族／攻4000／守4000

「SIN パラレルギア」+チューナー以外の「SIN」と名のついたモンスター1体

このカードがシンクロ召喚に成功した時、

自分または相手の墓地に存在するシンクロモンスター1体を選択して特殊召喚する事ができる。

「SIN パラドクス・ドラゴン」はフィールド上に1体しか表側表示で存在できない。

フィールド上に表側表示で「SIN World」が存在しない場合、このカードを破壊する。

遊「このデッキのエースカードだな。攻撃力守備力が高く、召喚も容易である点が強い」

ただし、他とは違い、フィールドがSINWorld限定の点に注意だ。

今日はやけにあつたりと終わつたね。

遊「手札がよかつたからな」

ちなみに何だつたの？

遊「クリッター、サイクロン、激流葬、テラフォーミング、S.i.n  
トルー・ドラゴン、終末の騎士だつた」

そ れ は ヒ ド イー！

三沢ご愁傷様だな。

遊「やすがに悪かつたと思つてゐれ・・・・・」

今回も見てくださいませ。

遊「語り部様、感想ありがと」

これからもがんばつて更新していきたいと思います。

遊「誤字・脱字、ブレイングミスがあつたら教えてくれると助かる」

感想も待つてます。

遊「じゃあ、次回、また会おうねーー。」

11月22日、Siriペラグクス・ドリゴン召喚前後のところ  
正しました。

教えてくださった、語り部様、siriusu様、ゼクスコイ様、  
ありがとうございます。

## 第五話／三沢魔改造？（前書き）

すいません。

不慮の事故により更新が一日遅れました。

遊「不慮の事故？」

うん。データがぶつ飛んじゃって、執筆中の小説のデータが全部消えちゃったんだ。

遊「大変だな」

だって、このマジスペック意外と低いからねーー！

遊「まあ、本編をじりうわ」

## 第五話／三沢魔改造？

さつきの「トコエルでわかるとおり、三沢の「ツッキは漫画版E・HEROみたいだ。

こちらは属性HEROが多いデッキだな。

「沼地の魔人王とかつてそのデッキに入れてるのか？」

「いや、入れてないな・・・。」

それよりも、さつきのシンクロ召喚とやらが気になるんだが・・・

・・

あー・・・あれか・・・・・・・。

「シンクロってのは、チューナーモンスターとチューナー以外のモンスターを墓地へ送ることで、Hクストラデッキからレベルの合計が一致する「シンクロモンスター」を特殊召喚できるっていう召喚方法なんだ。

たとえば、このスターダスト・ドラゴン。こいつはレベル合計が8になるようにすれば召喚できる

「・・・な!? それなら1ターン田から強力すぎるモンスターを出せるじゃないか!!」

「そういうことだ・・・・・・。」

余ってるから、沼地の魔人王と、相性のいい・・・そうだな、デブリ・ドラゴンをやるよ。

シンクロは・・・余つてて使わないのならなんでもいい

正直言つて、Syncとそのほかの2つのデッキ以外は使わないからな。

とこうか、使えない。

・・・待てよ？こいつそのじと持つてるE・HERO全部渡しちまつ

か？

たぶん、一枚だけのはないだろ？。

「あ、中に入つてるHEROも全部やるよ」

「いいのか？隨分と太つ腹じゃないか」

「何・・・・使わないからな・・・・・そんな箱に入れとくより、

使える奴に渡したほうがカードも喜ぶってことだ」

「・・・とんだデュエリスト魂だな」

「気にするな・・・・使えるのは氷結界の龍トリュシーラだけか・・

・・・。

まあ、シンクロはそんなもんか・・・・・

そういうて俺は、手元にあつたトリュシーラと沼地の魔人王とデブ  
リ・ドラゴンを3枚ずつ手渡した。

「本当にいいのか？」

「いいつたら、いいの。むしろもらつてくれ」

「・・・・そつか？じゃあ、遠慮なくもらつておいつ

本当に、三沢はいい奴だな。  
特に理由もなく信じてくれるし。

「デッキ、改造するか？」

「そうだな・・・・・」

とつあえずは、三沢のデッキを改造することにした。

・・・といふか、三沢つて意外に強いんだな。もう一回やつたら3  
回田で負けたよ。（10回）（廿回）



## 第五話～三沢魔改造？（後書き）

「遊夜のデッキって本当にひどいよな」

「三沢アラマーテュール後

「なにがだよ？」

「シンクロはいつても使えないのが多いし、融会にいたつちや絶対に使えないじゃないか」

「……気にしたら負けだろ」

「しかもさっきの手札は何だ！？あれじやあ勝てないだろーーー！」

「……まあ……不慮の事故だ……」

「……続かない。」

今回で三沢のデッキが異常に強くなりました。

遊「V・HEROアラマーテュールも渡したからな

プラスでシンクロである。

むしろチート化したかもしけん。

遊「普通に今なら負けるだろ・・・大抵の奴は」

だろうなww

遊「今回も見てくれてありがとう」

なすび様、ゼクスユイ様、sirrasu様、語り部様、感想ありが  
とうございます。

ブレイニングミスも訂正させていただきました。

遊「次回もまた会おうぜ。」

感想なんかもドシドシ送つてくれよ！」

ではノン

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6304y/>

---

遊戯王GXの世界に転生した物語（意外とそのまんまな題名）

2011年11月23日12時48分発行